



参考：アジア経済研究所「一村一品運動と開発途上国」、国連人間居住計画（UN-HABITAT）「ANNUAL REPORT 2005」、ほか

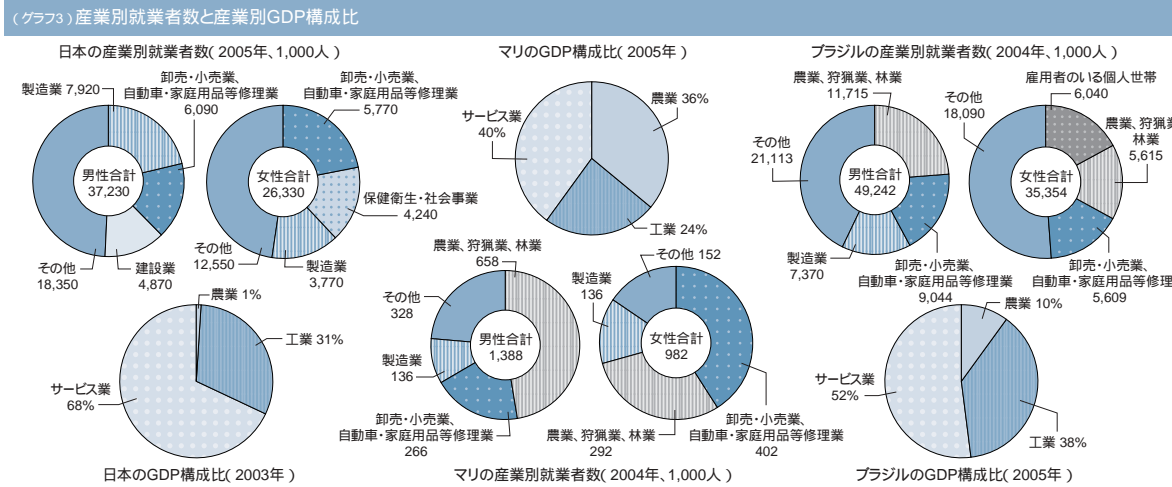
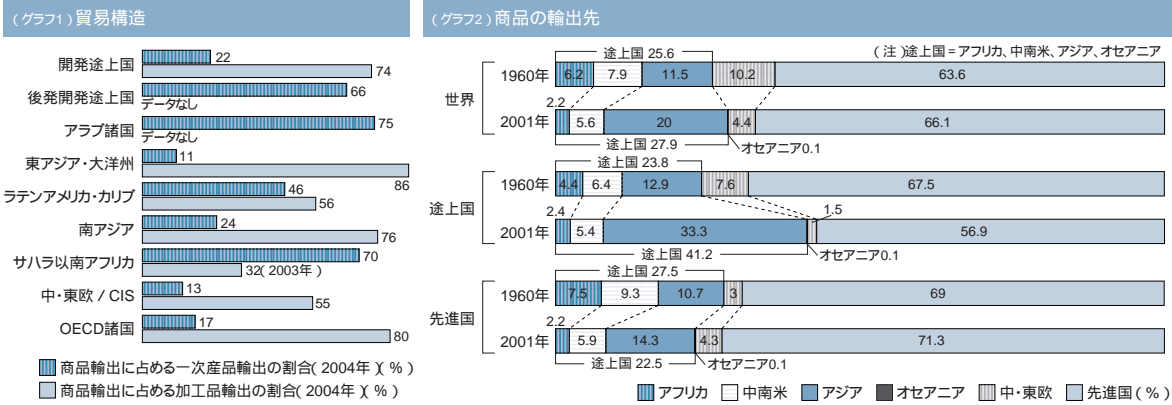
貧困と産業構造

B

貿易と産業構造

DATA

出典：国連開発計画（UNDP）「HUMAN DEVELOPMENT REPORT 2006」、国連貿易開発会議（UNCTAD）「2004 Development and Globalization: Facts and Figures」、国際労働機関（ILO）/ LABORSTA、世界銀行 / WDI Data Query

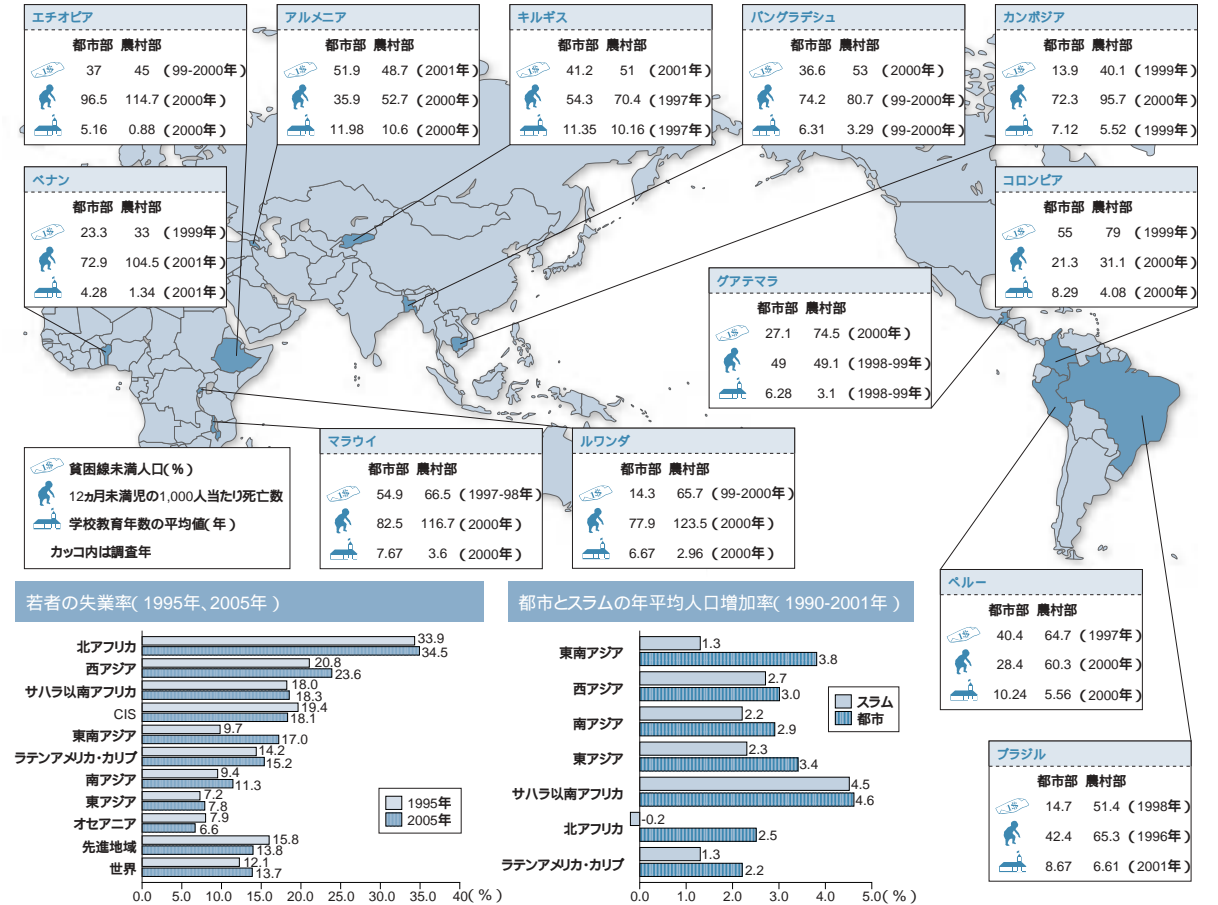


A

格差と都市化

DATA

出典：世界銀行「世界開発報告2006」、国連「The Millennium Development Goals Report 2006」



広がる都市と農村の格差

上の地図は、3つの指標における、都市と農村の格差を表している。ここで挙げたほとんどの国で、農村部の人々は都市部よりも厳しい暮らしを余儀なくされていることが分かる。特に、学校教育をきちんと受けることは、貧困の悪循環を断ち切るために大切だが、農村部の教育年数は総じて短い。

地場産業が発達していない国では、働き口やよりよい暮らしを求めて都市へと人が流れ込む。急激な都市の拡大が予想されているのは、いずれも途上国の大都市だ。その結果、国連では、2007年には史上初めて都

市部の人口が農村部を上回るだろうと予測している。ところが、都市の雇用も十分ではなく、特に若者の失業は深刻だ。10年間の失業率の変化を見ると、先進地域とオセアニアとCIS（独立国家共同体、旧ソ連12カ国）の失業率は減っているが、それ以外のすべての途上地域では増えている。このことは、スラム人口の増加につながっている。

生まれ育ったふるさとで働き、家族と一緒に暮らしたいと願う人は多い。地域に働く場があれば、暮らし環境も改善していくに違いないのだが。

農村で付加価値のある産業育成を

JICAをはじめとする援助機関は、地域の中小企業など民間セクターに対する支援を行っているが、市場が限られている途上国では、輸出で外国に販路を求めざるを得ない面がある。

アラブ諸国とサハラ以南アフリカでは、一次産品の輸出割合が大きい。石油や鉱物資源など一次産品の価格が高い場合はいいが、暴落したら経済に悪影響が出るのは必至だ。加工を施して付加価値を高めた商品の輸出が求められる。

過去40年間、途上国間の貿易は大きく増加した。これには、東南アジアからの輸出の伸びが反映されている。一方、先進国間の貿易はわずかな伸びにとどまっており、中・東欧諸国間の貿易は急激に減った。

途上国の国内総生産（GDP）に占める農業の割合は、先進国に比べると大きい。データのある国は限られるが、産業別就業者数を見ると、途上国では農業関係の職に就いている人の割合が高いことが分かる。

これらのことから、農村の地場産業の発展を支援することの重要性が見えてくる。